

令和元年度 事業報告書



G20 関係閣僚会合で献上した
「飯田水引」胸章
(令和元年 6 月 14 日 軽井沢)



企業展示説明会
(令和元年 11 月 28 日 エス・バード)

令和元年度 事業総括

令和元年度の国内経済は、世界経済の減速傾向に伴い輸出低迷や設備投資の伸びが鈍化したことも受け、回復は持続したものの力強さに欠ける年となりました。相次ぐ台風による被害、消費税率の引上げ、米中貿易摩擦の激化による影響などの要因が続き、企業を取り巻く環境はより一層厳しさが増している状況となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症が全世界へ拡大し、世界経済に大きな影響を与えはじめ、3月の全国企業短期経済観測調査（短観）では大企業製造業の景況感は5期連続で悪化となりました。長野県経済も全国同様、成長ペースが弱い一年となりました。

当地域においても、米中貿易摩擦による中国経済の減速などの影響を受けて製造業を中心に弱めの動きが続いていました。こうした中、旺盛な公共投資に支えられ、建設業では官需を中心に良好に推移しました。半生菓子、味噌、水引など地場産業の景況は、上記の影響を一部受けた事業者はあったものの概ね例年どおりだったものと思われまます。当地域の雇用情勢は、有効求人倍率も堅調に推移していますが、「専門的・技術的職業」や「生産工程の職業」「サービスの職業」などで人手不足感が引き続き強くなっているため、各業種とも人材不足が大きな課題となっています。

当地域には、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通など高速交通網の整備によるプラス効果を最大限に活かす戦略的な取り組みが必要と考えます。当地域が真の地方創生を成し遂げ、持続可能な地域を実現していくためには、リニア時代を見据え、地域に活力を生む「産業振興と人材育成の拠点」の形成と世界に誇れる南信州・飯田のスタイルを発信していくことが不可欠であり、ハードからソフトへの展開を具体化するためのエス・バードの利活用による地域産業の維持・発展・活性化が求められています。

本年度は、平成30年度に策定された「産業振興ビジョン」により「南信州地域が目指す産業の未来」として、「選ばれる地域」「共創する地域」「自立した地域」の3点を掲げ、地域の支援機関として従来から取り組んできた4つの柱である「新産業創出支援」「地場産業高度化・ブランド化支援」「人材育成支援」「販路開拓支援」に取り組みました。

新産業創出支援として中長期的な支援で取り組んできた航空宇宙分野においては、プロジェクトを立ち上げて以降最高の受注実績額となり、地域内の意欲的に取り組む既存企業が着実に力をつけ体質強化に結び付いています。また、食品分野では、食品系試験室のPR活動や研修会等の開催、飯田女子短期大学と食品業界が連携して新たにルミナコイド研究会を立ち上げ、新商品の開発や既存商品の高付加価値化に取り組みました。

販路開拓支援としては、ビジネスネットワーク支援センター事業により、各種展示会や商談会への出展と受発注支援に取り組み、前年度同様の実績をあげることができました。

地場産業高度化・ブランド化支援としては、長野県地域資源製品開発支援センターと連携し、デザイン力向上による商品の高付加価値化に取り組みました。

人材育成支援としては、「信州大学航空機システム共同研究講座」の運営を支援し、同講座から新たに6名の修了生が輩出され、県内企業への就職や、知見を蓄えた社会人学生が市内の企業に戻るなど人材の確保・強化に貢献しました。また、飯田産業技術大学では、企業ニーズに対応した講座の開催をはじめ、新たに食品系の講座を開設するなど充実を図りました。また、この地域の将来を担う人材を確保するため、エス・バードを活用した様々な学生向けのイベント（企業展示説明会、親子わくわく体験教室等）を行い、地域の企業を知り、地域に興味を持つ機会を提供いたしました。

エス・バードの施設・設備については、昨年度から行われてきたIV期工事の一部として外構工事等の整備が行われ、昨年6月末に完了いたしました。また、飯田工業技術試験研究所へ新たな環境試験機器として「高速温度変化試験装置」を導入いたしました。

施設利用については、エス・バード通信の定期発行やチラシの配布等のPR効果もあり、多様な主体が産業振興をはじめとした様々な目的で利用され、年間利用者は63,808名を数え、当初の目標を大きく上回ることができました。また、飯田工業技術試験研究所へ導入しました環境試験機器や食品系試験機器につきましても、地域内外から利用いただき、年度当初の目標を上回る実績結果となりました。しかし、使用料収入は、令和2年2月から3月にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大防止による自粛要請に伴い、利用のキャンセルが相次いだことが影響し伸び悩みました。

エス・バードがスタートして1年余りが経過いたしました。産業振興と人材育成の拠点として更に機能を発揮していくためには、飯田工業技術試験研究所における人材を含めた体制の強化、信州大学航空機システム共同研究講座の継続に向けた各機関との調整、インキュベーション室への企業誘導、共創の場における新たな仕掛けづくり等の様々な課題に取り組んでいく必要があります。

公益財団法人として南信州・飯田産業センターは、様々な課題と向き合いながら、これまで積み重ねてきた知識と経験、専門的人材を活用し、策定した産業振興ビジョンに基づいて、地域産業の持続的発展を支援するとともに、エス・バードの更なる機能を強化し、産業振興に寄与するための支援機関としての役割を果たしていきます。

■産業振興ビジョン個別事業における目標設定に対する実績

具体的事業（前期：2020年度末までの取り組み）

次世代産業の育成と基盤強化

1. 航空機関連産業の基盤強化
2. メディカルバイオクラスター分野の育成
3. 食における新商品開発、販路拡大、拠点の「食の基地化」

基幹産業・伝統的地場産業の高度化・ブランド化

4. ものづくりの高度化・高付加価値化支援
5. 地場製品のブランド化支援

人材確保・人材育成（横断的支援）

6. 高等教育機関との連携による高度人材育成
7. 地域産業の将来を担う人材の確保と育成

支援体制の更なる強化（横断的支援）

8. 地域内外への情報発信
9. 起業・創業支援、異業種連携、ビジネスマッチング
10. 公的試験部門の機能強化

指標名	前期（2020年度末） 目標値	平成30年度	令和元年度
1. 航空機分野に関する売上額	31.09億円	36.8億円	43億円
2. 新製品等の数（累計）	4件	4件	7件
3. 専門的な研修会等の開催回数	12回/年	2回	11回
4. 製造品出荷額	4,090億円	3613.8億円 （工業統計速報値）	（R3年2月 工業統計速報値公表予定）
5. 水引産業の全国シェア割合	70%	70%	70%
デザインサポート事業の開催数	5回/年	9回	25回
6. 信州大学学位取得者数（累計）	13人	2人	8人
7. 飯田産業技術大学受講者数	1,000人/年	913人	971人
高校生の事業参加者数	1,000人/年	729人	702人
8. 視察受け入れ件数	20件/年	25件	104件
シンポジウムの開催数	3回	3回	5回
9. I-Port 連携件数	3件	7件	4件
10. 工業技術試験研究所利用件数	1,150回/年	897回	843回

1. 施設利用事業

貸館事業については、エス・バードへの移転により施設規模や室数が増加したことで、利用件数、利用者数ともに増加しました。特に、入場者数は「共創の場」の中高生の自習スペース利用もあり、大幅増加となりました。なお、使用料収入は、令和2年2月から世界的に猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大防止のための自粛要請に伴い、利用のキャンセルが相次いだことが影響し伸び悩みました。

売店、飲食店、インキュベート室事業については、エス・バード移転後は各企業から定額の施設使用料と使用量に応じた光熱費をいただいています。

(1) 施設利用実績（直近10年）

年度	利用件数（件）	利用者数（人）	利用料収入（円）
22	1,029	44,079	25,236,284
23	918	45,960	22,680,332
24	973	47,511	23,918,876
25	1,004	46,739	20,298,108
26	891	46,816	20,806,792
27	840	47,603	20,336,495
28	836	45,311	20,207,985
29	700	42,071	20,355,063
30	664	39,623	19,782,029
1	881	63,808	20,253,002

※H30 旧施設とエス・バードの合算

※R1 利用料収入には売店、飲食店、インキュベート室の利用料金を含む。

(利用内訳)

利用の別	件数（件）	利用者数（人）
有料利用	533	51,163
無料、減免、内部利用	348	9,523
共創の場	—	3,122
合計	881	63,808

(2) 売店、飲食店、インキュベート室

	施設使用料（年額）	備考
売店「おいでなんしょ」	990,000	光熱費は別途請求
飲食店「3びきのこぶた」	630,000	
インキュベート室	732,000	
合計	2,352,000	

(3) 視察受入

「9. エス・バードの活用促進（4）」のとおり。

2. 産業振興事業

インキュベーター室の入居は、1者にとどまりましたが、PR活動により年度末から相談中の案件が数件ある状況です。

8月に開催した「親子わくわく体験教室」は、親子で3種類の地場産業の体験をしました。売店の協力も得て夏祭りを同時開催し、ニッチロー'氏のパフォーマンスもあり、多くの来場でにぎわいました。

新たに始まったシードルのブランド化支援については、シードルツーリズム推進事業に参画し、シードルをテーマとしたガイドブック「ご当地じゃらん」の制作を行いました。

(1) 研究開発支援事業【1, 2, 3, 4, 9, 10】

① エス・バードインキュベーター室の利用促進

B棟	インキュベーター1	H31.4入居済み (AM システムズ (株))
	インキュベーター2	入居審査中
	インキュベーター3	R2.7月入居予定
	インキュベーター4	R2.7月入居に向け協議中
E棟	インキュベーター1	R2年度より信大フードスペシャリスト養成講座
	インキュベーター2	空き室

② 飯田市環境技術開発センター

新規の入居希望者に対しては、審査委員会を開催して評価を行い入居の可否を判断するとともに、既存の入居企業についてはオーガナイザーが定期的に面談し、必要に応じて助言しました。

(2) 需要開拓事業【1, 2, 3, 4, 5】

① 親子わくわく体験教室 (8月16日 エス・バード)

・和菓子・木工・皮革の体験教室を実施 参加者 61人



(和菓子作り体験)

② やまなしリニアフェス (8月23～24日 山梨県立リニア見学センター)

・来場者 4,178人

③ 南信州うまいもの商談会 (10月9日 エス・バード)

・来場者 137人

(3) 地域ブランド構築事業【1, 2, 3, 4, 5, 8, 9, 10】

① デザインサポート事業

- ・長野県地域資源製品開発支援センターとの連携事業。
 - ・デザインから商品化までの実践を行った。
- 講演会（7月12日 エス・バード） 参加者18人
 お悩み相談会（9月5日、10日 エス・バード） 参加8団体
 サポート実践（延べ25回） 参加4団体
 成果報告会（新型コロナウイルスの影響により中止）



②ブランド化の活動支援

ア 飯田水引協同組合の活動支援

- ・G20 関係閣僚に胸章の献上（6月14日 軽井沢発地市庭）
- ・法政大学酒井ゼミとの連携による
ワークショップ（12月8日 浅草神社）



（法政大ワークショップ）

イ 三遠南信自動車道開通記念

プレイベントワークショップ出展
 （11月10日 そらさんぽ天龍峡）

ウ 菓子のブランド化

- ・飯田菓子大使小沢あきこ氏のブログ等で周知

エ シードルのブランド化

- ・南信州シードルツーリズム推進事業への参画
- ・「ご当地じゃらん」の制作協力

オ つぶほまれ栽培・加工研究会の活動

- ・研究会に11団体等 47名が参画
- ・松尾小学校が実施するつぶほまれの
栽培・加工を体験する学習プログラムの
支援



（松尾小 つぶほまれ収穫）

カ 南信州「吉鍋（よしなべ）」のPR

- ・南信州うまいもの商談会への出店（10月9日 エス・バード）
- ・飯田女子短期大学吉鍋ロックフェスの共催（12月15日）

③農商工連携の取り組み

- ・「つぶほまれ栽培・加工研究会」の活動支援（上記②のオのとおり）

(4) 産業活性化事業 **【4, 9】**

①各種地場産業団体、グループへの活動支援

- ・地場産マネージメント倶楽部（例会 9 回）
- ・南信州食品産業協議会（講演会 2 回）

②企業体質強化事業

- ・行政、金融機関、商工会議所等との連携事業「I-Port」へ参画し、4 事業者の支援を行いました。

(5) 情報収集提供事業 **【8】**

- ・エス・バード通信の発行（令和元年 9 月より隔月発行 4 回）
- ・ホームページの充実（随時）

3. 人材養成事業

飯田産業技術大学では、新入社員や若手社員を対象にした業務に必要な基礎的な知識及び専門的で実践的な講座等を実施しました。特に、経営管理講座では、食品系の講座を新設しました。

EMCシンポジウム I I D A は、今回 20 回目の節目を迎えました。今後は、企画と運営の母体である EMC 委員会を新たに構成し、シンポジウムの在り方や内容について検討を行っていきます。

また、エス・バードに整備された環境試験機器の PR と地域内外への情報発信を行うものとして、航空機システム環境評価試験シンポジウム (ASES2019) を初めて開催しました。EMC シンポジウムと同様に、今後も定期的に開催することで環境試験機器の利用促進を図っていきます。

その他、地域に新たに就職する高校生を対象に、社会人として求められる基礎能力の習得、ビジネススキルや会社組織におけるコミュニケーション力向上を目的とした講座を実施しました。

(1) 飯田産業技術大学【4, 7】

①技術講座 (会場：長野県飯田技術専門校)

講座名	開催日	延べ参加者数
測定基礎 I	4/9, 10	20 人
測定基礎 II	4/11, 12	20 人
測定基礎 III	4/17, 18	16 人
機械加工初級 (手仕上げ加工)	5/15, 16, 17	15 人
技能検定 (機械加工実技) 対策講座	6/4, 6, 11, 13, 17	35 人
三次元 CAD「SolidWorks2014」実習	6/10, 11	20 人
三次元 CAD「SolidWorks2014」実践	10/1, 2, 15, 16	20 人

計 20 日間 延べ 146 人

②経営管理講座 (会場：エス・バード)

講座名	開催日	延べ参加者数
品質管理入門	5/15	16 人
ISO9001 内部監査員養成講座	9/26, 27	34 人
ISO14001 内部監査員養成講座	10/17, 18	10 人
新 食品表示講座 (全 2 回)	7/24, 12/4	49 人
新 味覚センサー活用講座	11/6	12 人
新 知っておきたい高齢期の食事と食生活について-低栄養予防の料理教室	11/6	13 人
新 ルミナコイド講演会 (全 3 回)	11/11, 12/19, 1/30	75 人
新 HACCP 食中毒対策講座	1/16	28 人
新 野菜を一瞬で粉末に！独自製法研究のご紹介	2/25	24 人

計 14 日間 延べ 261 人

③特別講座（会場：エス・バードほか）

講座名	開催日	延べ参加者数
信州大学飯田コース「特別の課程」	4月～3月	120人
プロフェッショナル人材獲得セミナー	11/22	10人
科学実験探Q（総合大学院大学）	10/5	10人
航空機システム環境評価試験シンポジウム(ASES)	10/23, 24	226人
EMCシンポジウム I I D A 2019	10/31, 11/1	198人

計 46 日間 延べ 564 人



（経営管理講座）



（科学実験探Q）

（2）第20回EMCシンポジウム IIDA2019 【10】

（10月31日～11月1日 シルクホテル）

- ・今回で20回目の節目を迎えました。
- ・テーマ EMCの最近の話題と
EMC対策技術最新動向
- ・参加者 99名



（3）第1回航空機システム環境評価試験シンポジウム（ASES2019）

（10月23～24日 エス・バード、シルクホテル） 【1, 10】

- ・エス・バードに整備された環境試験機器について現地見学によるPRと地域内外への情報発信を行ったほか、業界や支援機関等で指導的な立場の方々の講演、講師と参加者の懇親交流会を行いました。

○講演内容

基調講演：民間航空機の現況と将来展望

講師 ボーイングジャパン（株） 益田直子氏

講演1：民間航空機装備品における環境試験の必要性

講師 住友精密工業（株） 高橋教雄氏

機器紹介：環境試験機器紹介（着氷試験・防爆試験・燃焼・耐火性試験）

飯田工業技術試験研究所

講演2：航空法改正による装備品産業の更なる発展に向けた環境整備

講師 国土交通省航空局 航空機安全課 長谷浩平氏

講演3：我が国の航空機装備品産業支援等について

講師 経済産業省製造産業局

航空機武器宇宙産業課 新倉崇之氏

参加者 57社 113名



(ASES 現地見学会)

(4) 地域内人材の発掘及び派遣事業【7】

エス・バード通信にて、様々な業種等の知識を生かした講座・講演のアイデアを募集したところ、2名から以下の内容で講師が可能との提案がありました。

- ・フラワーデザイン、アレンジ
- ・企業向けメンタルヘルス
- ・食育
- ・嚙下トレーニング

(5) 地域産業の将来を担う人材育成事業【7】

- ・新社会人育成講座 (2月14、18、21、22日 エス・バード)
- ・講師 まなびと 井坪まゆ美氏
- ・全4回、53名の参加がありました。
- ・内容

ビジネスマナーを習得する。
不安、心配を明確にする。
自分の人生をデザインする。
先輩の話を聴き、不安、心配を解消する。
課題解決のトレーニングをする。
成功からも失敗からも学ぶ力をつける。



4. 飯田ビジネスネットワーク支援センター（NESUC-IIDA）

第22回関西機械要素技術展などの展示会に飯田ビジネスネットワーク支援センター一名で出展し、この地域の技術力等をアピールし、顧客の確保に努めました。

また、オーガナイザーが中心となり、新たなビジネスマッチング機会の拡大を図るとともに、単独企業では取り扱えない案件について会員相互間での共同受注に取り組みました。

(1) 共同受発注事業【4】

① 展示会出展

- ア 第22回関西機械要素技術展（10月2～4日 インテックス大阪）
- イ よい仕事おこしフェア（10月7～8日 東京国際フォーラム）
- ウ メッセナゴヤ（11月6～9日 ポートメッセナゴヤ）
- エ 産業振興フェア in いわた（11月8～9日 アミューズ豊田）
- オ テクニカルショウヨコハマ（2月5～7日 パシフィコ横浜）
- カ 機械要素技術展（2月26～28日 幕張メッセ）



② 営業実績（直近10年）

引合件数は増加していますが、取引成約に結び付く案件はここ2～3年は50件台で推移しています。今後は引合の増加を取引成約に結び付けていく必要があります。

年度	取引成約金額 [千円]	引合件数	県外	県内	地区内	取引成約	成約率 [%]
22	334,768	223	181	7	35	52	23.3
23	284,735	205	189	0	16	45	22.0
24	306,641	126	117	1	8	47	37.3
25	442,773	139	124	4	11	54	38.8
26	587,390	335	300	6	29	41	12.2
27	726,490	410	375	3	32	42	10.3
28	835,439	491	472	5	14	95	19.3
29	1,032,645	540	468	4	68	57	10.6
30	1,048,160	581	534	25	22	58	10.0
1	1,034,220	657	619	0	38	55	8.4

(2) 連携製品開発事業【4】

1社だけでは対応できない開発案件は、会員企業のネットワークを活用し、複数会員の連携により取り組みを行いました。

名称	販売顧客先等	進捗状況
高速道路の通行運転者への警告・警報システム	高速道路関連商社	販売、開発継続
高速道路での危険運転車からの退避システム	〃	〃
平面発光 LED 照明装置	飯田市美術博物館	見積額の提示
非常時に持ち運びできる「ポータブルライト」	工事関係者	設計開発
リハビリ用下肢荷重測定装置	医療機関	販売、開発継続
伊賀良井発電所	電力会社	販売
パーソナルモビリティ生産委託	輸送機器メーカー	検討、中断
複数交通モードの現状可視化	電機機器メーカー	〃
複数環境の水路トンネル形状の3D計測	電力会社	〃
イングリッシュハンドベル	ハンドベル諸団体	販売
クラウニング樹脂歯車の開発製造	事務機器メーカー	販売
アディティブマニュファクチャリング技術を活用した金属造形	製造業企業等	技術応用
フェムト秒レーザーを活用した微細加工	製造機器メーカー	技術開発
地下変電設備における浸水センサーの開発・製造	電力会社	見積提示
ハイブリッド発電・蓄電システム	機器メーカー	販売

(3) 情報の発信と共有化【4, 8】

ウェブサイト、企業ガイドブックの活用や、展示会等への積極的な参加により会員企業の情報発信をし、新規顧客開拓、人材確保、ビジネスマッチング機会の拡大を推進しました。特にウェブサイトを通じて会員企業に引き合い等の情報を提供し共有化を図りました。

(4) 他地域との交流、先進地視察【4, 8, 9】

年度末に先進企業の視察を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で次年度へ延期しました。

5. 飯田工業技術試験研究所・飯田EMC試験室・食品系試験室事業

利用件数は前年度に対し微増しましたが、測定料収入は若干減少となりました。年度後半の新型コロナウイルス感染症の影響により、地域外の利用が減少したことが大きな原因と考えられます。

分野別では、電気関連は減少したものの、精密部品関連、食品関連、測定機器類の校正は増加しました。

環境試験機器の利用については、前年度に対し、地域内外ともに件数と測定料収入が増加しました。特に、地域外の利用が大幅に増えたことは、ASES2019をはじめ、様々な機会でのPRの効果が当研究所の認知度につながってきたものと推察されます。

また、機能拡充・強化として地方創生推進交付金を利用し、民間航空機規格（RTCA-D0160）に対応した、「高速温度変化試験装置」を導入しました。



(高速温度変化試験装置)

飯田EMC試験室は、前年度比較で利用件数は増加したものの、測定使用料は減少しました。また、地域別では、地元と県外の企業延数は増加しましたが、県内の企業延数は減少しました。試験品としては、防衛関係や民間航空機関係の利用があり、一般電気製品の件数が増加しました。

食品系試験室は、PR活動と研修会等の開催の効果により、前年度に対し利用件数、測定料収入ともに増加しました。新商品の開発や既存商品の高付加価値化につなげることができました。

(1) 工業技術試験研究所

①利用実績（合計 直近10年）

年度	地域内利用	地域外利用	利用計	測定料金 (円)
22	735	190	925	30,632,040
23	795	237	1,032	34,543,882
24	715	211	926	30,864,560
25	719	192	911	32,504,535
26	731	201	932	28,897,322
27	665	201	866	27,464,199
28	640	243	883	33,670,678
29	617	204	821	31,219,812
30	513	188	701	31,395,568
1	571	143	714	30,851,154

(2) 環境試験機器（着氷試験室、防爆試験室、燃焼・耐火性試験室）【1, 10】

①利用実績

年度	地域内利用	地域外利用	利用計	測定料金 (円)
29	3	1	4	5,091,570
30	2	8	10	1,620,490
1	13	30	43	3,488,896

②環境試験機器の導入状況

- ・平成28年度 着氷試験装置
- ・平成29年度 防爆試験装置
- ・平成30年度 燃焼・耐火性試験装置
- ・令和元年度 高速温度変化試験装置

(3) 飯田EMC試験室【10】

①利用実績（直近10年）

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金 (円)
22	90	38	24	152	17,618,425
23	87	49	32	168	22,936,222
24	62	52	36	150	21,157,010
25	69	35	25	129	22,795,505
26	84	53	20	157	18,882,921
27	78	52	22	152	15,347,747
28	73	78	18	169	20,767,249
29	55	47	24	126	13,748,111
30	42	53	10	105	17,517,785
1	59	31	18	108	16,295,233

(4) 食品系試験室【2, 3, 4, 10】

①利用実績

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計	測定料金 (円)
30	1	0	0	1	4,700
1	38	4	6	48	359,112

6. 新産業クラスター事業

航空機分野では、飯田航空宇宙プロジェクト及びエアロスペース飯田の受注拡大に向けて、クラスターマネージャーとコーディネーターを配置し、ビジネスマッチングや展示会に参加し、さらに、これまで培ってきたネットワークを活かして川下企業に対する営業活動、海外から航空機メーカーを招待し講演会を実施しました。特に、飯田航空宇宙プロジェクトの会員企業を49社まで増やし、多方面からの受注が可能となるべく体制の強化を図りました。また、技術力向上のための専門家派遣や、本年度新たな取り組みとして、長野県と連携して海外の航空機産業の現状の把握と、受注獲得に向けた調査事業を実施しました。

メディカルバイオクラスターでは、分科会を開催し、学習・情報交換を実施しました。また、新たにルミナコイド研究会を発足し、飯田女子短期大学と連携して取り組みをはじめました。

(1) 航空宇宙クラスターの形成支援【1】

①プロジェクト活動推進全体会議(2回/年)、エアロスペース飯田会議(12回/年)

- ・「多摩川精機の航空機事業の現状と展望」(4月8日 エス・バード)
講師 多摩川精機(株) 瀧川 整氏
参加者 25名
- ・「MRJ開発と航空機産業発展への期待」「DMG森精機の航空機部品加工への取り組み」(4月10日 エス・バード)
講師 DMG森精機(株) 森本浩通氏
参加者 45名
- ・「エアバスの技術革新について」(10月7日 エス・バード)
講師 Airbus Japan 小林哲也氏
参加者 50名

②ワーキングチーム活動(33回)

- ・WT1(エアロスペース飯田:受注活動)28回
- ・WT2(一貫生産管理体制構築講演会)2回
- ・WT3(IoT研修)2回
6/19 IoT研修会 参加者35名、7/4 IoT活用相談会 参加者25名
- ・WT4(ロボット導入セミナー・見学会)1回

③共同顧客開拓及び技術補完企業開拓(30回)

- ・7/22 東京都立産業技術研究センター見学会
- ・7/22~23 AMATERASとの情報交換会

④伊那テクノバレーと連携した各種セミナーの開催

- ・12/19、1/17 ISO9100内部監査員養成講座 20名(WT2)
- ・10/3 ロボット導入セミナー 52名(WT4)

⑤長野テクノ財団との共催の講演会開催

- ・日本担当「フランスの航空機産業とその期待」(9月19日 エス・バード)
講師 SAFRAN社 ギィ・ボノー氏
参加者 29名

⑥一貫生産体制の強化支援

- ・専門コーディネーターによる QA 体制構築指導 参加者 9 名
- ・TPM を活用し一貫生産開始

⑦国内外展示会出展等による販路開拓事業

- ・エアロマート名古屋 2019 (9 月 24~26 日)

⑧「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の変更及び継続申請支援

- ・飯田下伊那 35 事業所指定

⑨航空宇宙産業クラスター拠点工場支援事業

⑩サプライチェーンの機能強化

- ・川下企業向けの広範囲サプライチェーンの構築
- ・川下企業との航空衛星用照明装置開発実験 (エス・バードにて)

(2) メディカルバイオクラスターの運営支援【2】

①医療機器系・食品系分科会 (4 回/年)

- ・「保健=医療=福祉 シームレスな食支援の実現に向けて」(9 月 9 日 エス・バード)

講師 輝山会記念病院 管理栄養士 中村 愛氏

参加者 20 名

- ・「コスミック恵歯研の事業紹介」(10 月 24 日 エス・バード)

講師 (株) コスミック恵歯研 代表取締役社長 大前 年之氏

参加者 9 名

- ・「知っておきたい高齢期の食事と食生活について 低栄養予防の料理教室」
(11 月 6 日 エス・バード)

講師 管理栄養士 野村 雅子氏

参加者 14 名

- ・「高齢者の嚥下について/介護食の試食」(1 月 29 日 エス・バード)

参加者 17 名

- ・「家庭でつくる嚥下食」(新型コロナウイルス感染症の影響により中止)

②みそ大学「出前味噌講座」を開催 (5 回/年)

③カミン焼印を活用した食育推進事業 (11 月 3 日 ゆるキャラグランプリ出展)

④ルミナコイド研究会 (11 月発足)

- 講演会 「地域食材とルミナコイド」(11 月 11 日 エス・バード)

講師 飯田女子短期大学 友竹浩之教授



(ルミナコイド講演会)

○分科会メンバーによる学習会

- ・「栄養素の消化について」(11 月 11 日 エス・バード)

参加者 34 名

- ・「南信州産食材に含まれるルミナコイドの機能性」(12 月 19 日 エス・バー

ド)

参加者 17名

- ・「酒粕、甘酒、あずき、こうや豆腐等の機能性について」「食品開発実習における商品開発事例について」(1月30日 エス・バード)

参加者 25名

⑤長野県テクノ財団と連携した視察

- ・11月25～30日 オランダワーニンゲン地区
ワーニンゲン大学、フードバレー財団等を視察

(3) 環境・エネルギー産業の活動支援 **【4】**

マイクロ水力発電システムの開発と実証実験の支援を実施しました。

(4) 製品(技術)開発等に関する活動支援

- ①専門家の派遣とアドバイス支援(随時)
- ②地域や行政課題等の情報を収集し、飯田ビジネスネットワーク支援センターと連携し企業へ提供(随時)
- ③各種補助金等の説明及び相談会の開催(随時)

(5) 次世代航空機開発に必要な環境試験機器の整備と高度技術者の育成及び共同研究体制の構築(地方創生推進交付金)

- ①環境試験機器(D0-160)の整備(高速温度変化試験装置)
- ②航空機産業及び環境試験機器に関する人材育成事業
- ③環境試験設備の活用調査事業(委託先:三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(6) 航空機装備品分野を中心とした技術力向上及び販路拡大を目指したコンサル業務(地方創生推進交付金)、海外からの受注獲得に向けた市場調査(長野県連携調査)

①地域企業における技術力向上及び販路開拓等のコンサル支援

<調査内容>

- ・世界の航空機市場の調査
- ・航空機メーカーの戦略の聞き取り
- ・(海外メーカーの)企業立地の可能性調査
- ・エス・バードのPR活動

②令和元年度航空機産業誘致リサーチ事業(長野県連携事業)

長野県航空機産業振興ビジョンに基づき、アジア地域へ新たに展開しようとしている米国航空機メーカーや関連企業等に対し、動向調査等を行うことにより、県内企業の新たな研究開発や販路拡大、さらには県内への企業誘致につなげる営業活動を行いました。

- ・11月6日～21日: Los Angeles, California
- ・12月7日～17日: Los Angeles, California
- ・1月31日～2月18日: Los Angeles, California

7. 拠点工場管理運営事業【1】

表面処理工場棟Bについて令和元年9月に契約期間満了となったため、新たな入居企業の公募を実施したところ、多摩川パーツマニュファクチャリング（株）より応募があり、入居契約を更新しました。

（1）工場の概要と入居企業

①熱処理工場棟（特殊工程技術（熱処理・非破壊検査）及び共同企業体の営業スペースを有する工場。延床面積 1,041.52 m²）

- ・入居企業 多摩川パーツマニュファクチャリング（株）
エアロスペース飯田

②表面処理工場棟（特殊工程技術（表面処理）及び飯田工業技術試験研究所検査部門を有する工場。延床面積 1,273 m²）

- ・入居企業 多摩川パーツマニュファクチャリング（株）
飯田工業技術試験研究所

（2）運営に関する費用

①長期借入金 借入金額 210,000,000 円

②返済期間 20年元金均等

③利率 1.51%（固定）

④返済経過

年度	家賃収入（円）	返済（利息込）（円）
26	15,538,312	0
27	24,033,192	13,597,832
28	24,033,192	13,422,757
29	24,033,192	13,268,368
30	24,033,192	13,109,761
1	24,256,288	12,957,732
合計	135,927,368	66,356,450

8. 三遠南信・広域連携事業

(1) 三遠南信地域【4, 8, 9】

三遠南信地域の連携事業として、浜松商工会議所主催のビジネスマッチングに地域内中小企業のエントリー支援を行いました。残念ながら不採択により企業の参加はありませんでした。

- ・ 新技術・新工法展示商談会 in Nabtesco
日 時 11月28日
場 所 ナブテスコ(株)津工場
主 催 浜松商工会議所(事務局のみ参加)

(2) 中京圏地域【1】

- ・ アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区推進協議会に参加しました。
- ・ 航空機システム開発支援施設エス・バード等見学会
日 時 9月27日
対 象 者 エアロマート名古屋2019参加者対象 参加者：4社、14名
視察場所 エス・バード、航空宇宙産業クラスター拠点工場
そ の 他 長野県との合同事業

(3) 関東圏(長野県を含む)【1, 2, 3, 4】

関東経済産業局が主催するビジネスマッチングに参画するとともに、他地域の航空宇宙産業クラスターの視察や受け入れを行いました。

- ・ 航空機産業分野におけるマッチング
日 時 11月6～8日
場 所 独立行政法人 中小企業基盤整備機構(中小機構)
主 催 経済産業省(関東経済産業局)
そ の 他 当地域では川下企業側で参加

9. エス・バードの活用促進

エス・バードがオープンして1年が経過し、予想を上回る利用や視察の受け入れを行うことができました。なお、実際に利用がなされる中で、施設の新たな改善個所が見つかるなど、今後はさらなる利便性向上と機能向上に向けた整備拡充が求められています。

信州大学航空機システム共同研究講座の支援、コンソーシアムによる学生支援等により、今年度は6名の修士取得者が輩出されました。昨年7月より共同研究講座から正式な大学院化に向けて、信州大学工学部との議論を本格化しました。

デザイン系高等教育機関の設置に向けて、シンポジウムを開催し機運を盛り上げることができたほか、県知事や信州大学幹部及び農学部と「ランドスケープデザイン」の講座設置に向けての具体的な内容について協議を進めました。

(1) 産業振興と人材育成の拠点づくり

①整備関係

- ・令和元年6月に外構工事が完了したことで、一通り整備事業が完了しました。

(2) 信州大学航空機システム共同研究講座の支援【1,6】

①修士取得者

平成31年3月 2人

令和2年3月 6人

(学生数の推移)

	H29	H30	H31/R1	R2
1年生	3 (社会人1)	5	3	4
2年生	0	3 (社会人1)	6 (社会人1)	3
合計	3	8	9	7

(研究と人材育成の成果・実績)

- ・航空機メーカーのニーズに応じた最先端の研究（非接触油量計、磁性流体ブレーキ、GPS/INS 複合航行システム、事故防止を図るヘッドマウントディスプレイ）を企業とともに実施。
- ・2月20日に修了生研究発表会が行われ、地元企業と学生が技術や研究について活発に意見を交わしました。
- ・令和2年3月修了生の中には、応用磁気学会で「年間論文奨励賞」を受賞した学生が育成されるなど、ハイレベルな人材育成が展開されています。



(修了生研究発表会)

- ・修了生は、航空機大手の重工業企業をはじめ、航空機関連企業等に就職。県内企業への就職や、知見を蓄えた者が市内企業に戻るなど、県内の企業人材の確保・強化に寄与しました。

②コンソーシアムの機能強化

新規会員募集、企業版ふるさと納税の活用等を行いました。

③高等教育機関への移行

- ・信州大学をはじめ、関係機関等と連携した情報収集を行いました。
- ・信州大学は、平成31年4月に大学内組織の改組により、南信州地域を「航空宇宙システム研究拠点（SURCAS）」とし、今後も航空機システム分野の取組を強化する方針です。
- ・令和3年度以降の支援の在り方について、信州大学や長野県、コンソーシアム各関係機関と具体的な支援の方法について検討を開始しました。

④学生支援（給付型奨学金制度及び引越しに関する経費支援の実施）

給付型奨学金	信大大学院生	M1：5名	M2：2名	360,000円／人
		M1：1名		180,000円／人
引越し経費支援	信大大学院生	M1：3名		100,000円／人

⑤その他

- ・飯田市工業課のスーパーサイエンス事業（航空機の基礎原理やJAXA連携）へ大学院生が参加し、地元小学生の学びの場を提供しました（7月、3月）。

(3) デザイン系高等教育機関の設置に向けての展開【5,6】

①デザイン系高等教育機関設立準備会（4/15、8/26、12/3）

- ・準備会加入者 24者
- ・準備会代表に綿半ホールディングス（株）野原社長が就任。

②シンポジウムの開催（5月4日 エス・バード）

- ・基調講演①「ランドスケープデザイン」
講師 福井県立大学 学長 進士五十八氏
- ・基調講演②「風景をつくるということ～盆栽から現在美術まで～」
講師 武蔵野美術大学 名誉教授 柏木博氏
- ・パネルディスカッション
「ランドスケープデザインの学び舎構想」
パネラー 綿半ホールディングス（株）代表取締役社長 野原勇氏
東京芸術大学 名誉教授 北川原温氏
信州大学農学部 准教授 上原三知氏
コーディネーター 南信州・飯田産業センター 専務理事 萩本範文氏
- ・参加者 約150名



(デザインシンポジウム)

③関係機関協議等

- ・信州大学（9月3日副学長、10月24日学長及び農学部、3月31日農学部）
- ・長野県（10月10日県知事及び産業労働部長）

- ・飯田市及び南信州広域連合（3月31日飯田市長）

④特記

- ・信州大学や準備会での検討を重ね、当地域の特性・環境を活かした「ランドスケープデザイン」を学ぶための講座を設置する方向性が定まりました。
- ・教員の選定及び講座内容について信州大学農学部のワーキングチームが検討中です。
- ・地域としては、航空機システム共同研究講座と同様、地域でコンソーシアムを設立し、資金的支援を行うよう準備を進めていきます。

(4) 視察の受入

①受入数

104 団体 1,431 人

②主な受け入れ先

国（総務省、財務省、経産省、国交省等）、経済団体（同友会、商工会議所等）、地方公共団体、大学、航空機メーカー、食品企業、一般（地元各種団体等）

10. その他

(1) 公益法人運営管理

- ・長野県出資等外郭団体評価定期報告
- ・長野県知事（公益認定委員会）あて次年度事業計画等の提出 ほか

(2) 地場産業振興センター協議会への参加【8,9】

①全国地場産業振興センター協議会

ア 総会（7月11日 岩手県）は欠席。

イ 新型コロナウイルス感染症にかかる影響調査等への協力

②関東経済産業局管内地場産業振興センター協議会

ア 協議会

・第62回協議会 6月13日 会場：エス・バード

・第63回協議会 11月14日 会場：燕三条地場産業振興センター

イ 新型コロナウイルス感染症にかかる影響調査等への協力

(3) 新型コロナウイルス感染症にかかる対応と影響

①対応の経過

2月29日 C棟1階「共創の場」について利用停止または利用制限を開始。
施設内主要箇所に消毒液及び手洗い励行文書を設置。

3月2日 飯田市のイベント自粛要請を受け、3月16日までセンター主催事業の自粛を開始。施設利用者に対してもイベントの自粛要請を行う。

3月13日 飯田市のイベント自粛要請を受け、3月19日まで延長されたことを受け、センターの対応も同様に延長。

②施設利用キャンセル（2/12～3/31の新型コロナの影響によるもの）

53件 1,883,500円分

【南信州地域における社会情勢の変化】

- リニア中央新幹線及び三遠南信自動車道の開通により、大都市圏との時間的制約が解消し、これまでにない規模の大きな人の流れが生まれる。
- 少子高齢化や都市圏への人口流出による生産年齢人口の減少に伴い、人材不足が加速し、当地域を支えてきた基幹産業や、伝統的地場産業が衰退し、事業承継問題もあって技術の喪失に直面する。
- グローバル化の進展に伴い、販路開拓から、生産、販売、消費等の一連の経済活動において、国内に留まらず世界中に取引先が拡がり、広い視野と行動がスタンダードとなる。
- IoTやビッグデータ、AI、ロボットなどの最新技術が、人々の暮らしにも大きく影響する可能性がある。

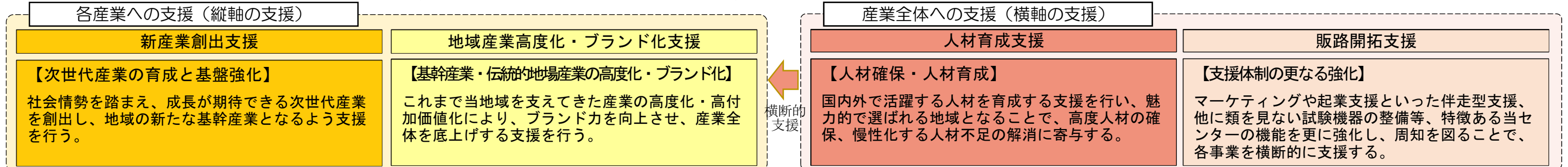
【南信州地域の課題】

- リニア中央新幹線の開通によって起こる当地域の大規模な人の出入りのインパクトを適切に捉え、都市圏と競うだけではなく、地域の特色を生かした産業を振興し、選ばれる地域を目指す必要がある。
- 異業種連携の伴走型支援や、試験所機能の強化といった支援体制の更なる強化を図り、地域産業の高度化・ブランド化を図るとともに、成長が見込める新産業を創出し、育成する必要がある。
- これまで築いた技術と最新技術を調和させることができ、また成長が見込める新産業をリードすることができる高度な人材を確保・育成する必要がある。
- ものづくりは得意であるが、その販売先や手段が従来の範囲にとどまりがちな当地域において、各企業がマーケティング力を強化し、国内外を問わず販路を拡大する必要がある。

【南信州地域が目指す産業の未来】

- ① 最新技術と南信州地域の豊かな自然が交差し、多くの人々が訪れ、活動し、実りを得られる、選ばれる地域を目指します。
- ② 人が集まり、共に学び、創造することで、人が産業や地域を育み、更にそうして育まれた地域や産業に魅かれて人が集まり、共創する地域を目指します。
- ③ これまでの基幹産業が持続的に発展し、更に新産業が創発され効果的に地域産業が融合し、各産業の技術力が向上し体制が強化されている自立した地域を目指します。

南信州・飯田産業センターは、地域の支援機関として、以下の4つの支援を中心に取り組みます。



南信州・飯田産業センターは、「目指す産業の未来」を実現するため、具体的に以下の事業に取り組みます。(前期：2020年度末までの取り組み)

次世代産業の育成と基盤強化			基幹産業・伝統的地場産業の高度化・ブランド化		
具体的 な事業	1 航空機分野産業の基盤強化	2 メディカルバイオクラスター分野の育成	3 食における新商品開発、販路拡大、拠点の「食の基地化」	4 ものづくりの高度化・高付加価値化支援	5 地場製品のブランド化支援
	○プロジェクトマネージャーを中心に、飯田航空宇宙プロジェクト・エアロスペース飯田の受注拡大を目指すための支援を行います。 ○海外からの受注にも対応するため、エアロスペース飯田の組織の強化と、メンバー企業各社の体質強化を推進します。	○飯田メディカルバイオクラスター「医療機器分科会」「食品系分科会」について、医師会、医療関係者や関係機関と連携することにより様々な事業を実施し、クラスター活動の強化を図ります。 ○国内川下企業からの受注獲得に向けて、クラスター組織の機能強化に努めます。	○食品産業の専門人材、信州大学、長野県工業技術総合センター、飯田女子短期大学等と連携し、健康、長寿、機能性等について共同研究・開発を行う。 ○新たに導入する味覚センサー、レオメーター等の試験設備を活用することにより、おいしさの数値化、分析を進め、データの蓄積を行う。	○地域内の中小企業で構成する「ネスクーイダ」においてオーガナイザーの支援の下、新製品の開発や大手企業等からの受注拡大を目指します。 ○地域内企業の潜在能力を活かすため、地域内外の支援機関・大学との連携を図り、製品の高付加価値化に取り組みます。	○水引等の伝統的地場製品について各団体と連携して、デザイン力を加えたブランド力向上に向けた、様々な事業を実施します。 ○大学との連携により、課題の洗い出しを深化させ、解決に向けた取組を行います。
目標設定	航空機分野に関する売上額 31.09 億円	新製品等の数 (累積) 4 件	専門的な研修会等の開催 12 回/年	製造品出荷額 3,482 億円 (2016 年実績) → 4,090 億円	水引産業の全国シェア 70%維持 デザインサポート事業の開催 5 回/年
具体的 な事業	人材確保・人材育成 (横断的支援)		支援体制の更なる強化 (横断的支援)		
	6 高等教育機関との連携による高度人材育成	7 地域産業の未来を担う人材の確保と育成	8 地域内外への情報発信	9 起業・創業支援、異業種連携、ビジネスマッチング	10 公的試験部門の機能強化
目標設定	信大学位取得者数 (延べ人数 13 人)	飯田産業技術者大学受講者数 1,000 人/年 高校生の事業の参加者数 1,000 人/年	視察の受け入れ 20 件/年 シンポジウムの開催 3 回/年	I-Port 連携件数 3 件	○海外でも類を見ない環境試験機器の充実を図ることにより、航空機産業を中心とした製品の高付加価値化に貢献します。 ○従来からの知見のある EMC 試験について、自主測定のみならず受託試験を積極的に受け入れ、付加価値の高い試験部門を目指します。 工業技術センター試験部門利用件数 852 回/年→1,150 回/年

毎年度実施する取り組みについて

- 毎年事業計画を策定し、その計画を基に事業を実施します。
- 事業計画・事業報告策定時には、PDCA サイクルにて各々の事業を検査します。

- 年度末には、理事会・評議員会において、一年間の事業内容を精査します。
- 専門人材とともに、地域課題の解決に向けた取り組みを実践します。